

2010年7月28日

気候ネットワーク東京事務所御中

ヒートポンプの性能測定方法に関する公開質問状に関する件

謹啓 大暑の候、益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

過日の公開質問状に関し、下記ご回答申し上げます。

謹白

記

Q1-Q3については、Q3 下欄にまとめて当社見解を記載させて頂いております。

★ エアコンの性能評価と表示について

エアコンに関して、ユーザーによる一般的なリモコン操作では再現できない方法、いわゆる「爆風モード」を採用したエアコンは、これまで約3,000万台～4,000万台が販売されたと伝えられている。こうした製品の製造、販売状況について質問する。

Q1：爆風モードにより性能測定したエアコンの販売を行っていたことがあるか？あるとすればその時期は？

- A ある (時期：)
B ない

Q2：毎年の製品ごとに、爆風モードを起動するためのスイッチ操作方法を明らかに（自動起動の場合は明記）。各機器の国内販売台数（実績）の概数。

Q3：上記の測定方法やその表示は、法令や消費者への状況提供の観点から、適正なものと考えているか？また、いわゆる爆風モードを搭載していると知りながらこれらの機器を製造・販売していたのであれば、どのような経営責任をとられるつもりか？

- A 表示は適正である B 表示は適正ではない

(経営責任について)

爆風モードとの認識はございませんが、過去に JIS 規格に基づく条件設定の範囲ではあります、ユーザーの実使用では出現しにくい試験条件設定で性能評価を行っていた時期があり、道義的には課題があったと真摯に受け止めております。なお、現在の製品では既に見直し、改善を致しております。

Q 4 : 上記の問題に加えて、エアコンの使用時間も過大に見積もられ、実体とは乖離した表記がなされていると伝えられている。エアコンの性能測定方法や店頭表示法に関しては、通常作動や時間に則した表示とすべきと思うが、今後の改善策や基本方針は？

A 実性能に則した表示とすべき

B JIS に則した表示とする

(今後の改善策や基本方針について)

使用時間を根拠のある数値に改めるべきとのご意見ですが、消費者が機器を使用する時間にはばらつきがあり、使用時間を一義的に定義することは困難と考えます。今後も店頭表示が必要であれば、新たな表示方法の検討が必要と思われれます。

Q 5 : エアコンに冷媒としてフロンを使用している場合、カタログにフロンの種類、封入量、地球温暖化効果を表示すべきと考えるが、表示されているか？また、冷媒フロンの対応について自然冷媒への転換や今後の表示等についての考え方は？

A 表示している

B 表示していない

冷媒の種類(HFC)をカタログに記載しております。

冷媒転換については、安全性の確保、及び従来機に準ずる性能/LCCP の確保の視点で、実用的に確と判断できる候補冷媒と機器の組み合わせを検討してまいります。

★ エコキュートの性能表示について

エアコンのみならず、エコキュートの実性能は通常地域においてCOPが2前後、寒冷地では1程度と言われ、エコキュートの効率性が過大に評価され、不適正な表示がなされていると言われている。温暖化対策施策の中で今後大幅な導入が見込まれているが、実態に則した表示がなされていなければ今後、冷蔵庫、エアコンに続き3度目の社会的被害になることが懸念される。

Q6: エコキュートを年間何台程度、製造販売しているか? 性能表示と実性能が上記のように違いがあるか?

エコキュートの販売台数 年間 台

- A エコキュートの製造はしていない
- B 実性能はCOP表示と異なる
- C 実性能はCOP表示と同じ

申し訳ありませんが実績は公表致しておりません

Q7: エコキュートの効率について、適正な測定規格・表示を導入する方向に進む責務についてどのように考えるか?

JIS化の審議が進行しております。JIS公示後は、これに準拠した効率評価、表示を行います。現在カタログには、測定条件とその条件下で測定した性能を記載しております。

★ ヒートポンプと温暖化対策について

全般的に過大性能評価されたヒートポンプは温暖化対策になるどころか、むしろ対策を遅らせる原因にもなる。また、エアコンなどのヒートポンプに封入されている冷媒フロンは高性能の表示のために増量されてきたとの報告もあり、実体的な省エネ効果がないばかりか、フロンの使用時大量漏えいや回収率の低迷により地球温暖化を促進していることが明らかになってきた。

Q8: 実態を欠く、虚構のヒートポンプを推進した弁償として、市場に出回った冷媒フロン、いわゆるフロンバンクの回収対策についてどう考えるか? (自己資金によるフロンの買い取りなど)

廃棄時のフロン回収に関しましては、家電リサイクル法に基づき実施しております。また、機器使用時の排出に関しましては、日本冷凍空調工業会内 WG に参画し改善検討を進めております。

Q9: 表示性能に満たない製品を購入した消費者に対して、どのように弁償するのか? (金銭賠償や、表示どおりの性能が発揮される製品への取り替えなど)

JISに基づく評価を実施し、表示性能を満たすことを確認しております。また、表示性能値については目安とお考えいただき、使用環境等により変化する旨を、カタログ等にも記載しております。

Q10：(財) ヒートポンプ・蓄熱センターが6月8日、ヒートポンプの高性能化、普及拡大で大きな経済効果とCO₂の大幅削減が期待できるとの報告書を発表した。報告書では、冷暖房や給湯がすべてヒートポンプに変われば1億4000万トンの削減可能性があるとしている。こうした削減PRに対しどのように考えるか？どのように関与する予定か？

今後とも様々なグループ・団体様と意見を交換し、CO₂削減、低炭素社会の実現に向け取組んでまいります。

★その他本件に関し何かコメントがあれば

以上

今後とも、引き続きご支援・ご鞭撻をよろしくお願い致します。

三菱電機株式会社

リビング・デジタルメディア事業本部